

# 地域貢献加速に向けた教育研究DXによる大学病院がん診療拠点力強化事業

申請：岡山大学



OKAYAMA UNIVERSITY

～「データ駆動の経営改革」と「教育研究DX」を核に、地域協働で推進する高度がん医療・研究強化・人材育成の三位一体改革～

## 岡山大学病院の課題

- 地域医療を支える医療機関として医師派遣の責務
- 診療の高度化・複雑化の下、医師の教育・研究時間確保が困難
- 機器老朽化、物価高騰や人件費・材料費、機器更新費の増大
- 大学病院業務の効率化・人員配置の適正化の必要性が増大

## 岡山大学病院改革プラン

### 3つの柱

- ✓ 高度医療・研究の推進
- ✓ ホスピタル・ネットワークによる地域医療提供体制の維持・強化
- ✓ デジタル技術を活用した教育・研修の充実

### 改革の主眼:

- 病院運営改革
- 意思決定の強化
- 地域医療連携
- 研究・教育基盤の強化

## 確かな経営・構造改革実績

- 体制: 病院長直轄「経営戦略課」による強固なガバナンス
- 運営改革: 人員再配置・業務効率化 → 教育・研究へのシフト
- 財政: 赤字決算(R6) → 黒字化見込み(R7) ↑
- 地域連携: 既存の「地域医療構想調整会議」を通じて自治体等と協働体制を確立済み

## ● 本事業における改革の方向性

### 1. 高度医療(高難度がん治療・ゲノム医療等)と研究の推進

- がん診療拠点力の維持のための設備更新と高度医療の提供
- 研究DXと広域臨床研究の加速(研究と診療の両立)

### 2. 地域課題(医師偏在等)への積極的対応

- 県と連携した地域医療の維持・強化(ホスピタル・ネットワーク)により、機能分化下で教育研究・医療の連続性確保
- 地域医療人材循環・構想実行プラットフォーム(仮称)の新設に向けた検討

### 3. デジタル技術を活用した教育・研修の充実と医療人材育成

- 教育DXによる生産性向上・教育連携強化による人材育成

地域貢献

大学病院経営

病院経営の  
構造転換  
(経営資源配分の  
意思決定)

## ● 事業ごとの成果目標・KPIの設定

- 大学病院経営指標におけるEBITDA(医業利益+償却費)の改善  
.....20%増 ↑
- 地域医療機関への高度専門医師派遣の拡充  
.....7%増 ↑

①経営(収益・コスト・稼働) ②教育(育成・到達度・評価負担)  
③研究(外部資金・治験等) ④地域貢献(派遣・連携・症例集積・機能分化)  
の4つの視点で設定  
→定期的なモニタリングと経営層の意思決定の判断根拠とする

## ● 補助金を活用した取組み内容(カッコ内はKPIの視点)

### 密封小線源がん治療の教育研究拠点形成

- 高度密封小線源がん治療教育プログラム年間受講者数: 30名 → 140名(②④)
- 密封小線源治療関連の研究論文投稿数: 年間1件 → 年間3件(③)

### 研究DXによる医療データ活用プロセスの自動化と研究機能の抜本的強化

- DX基盤および図表生成機能の利用件数: 年間3件 → 30件(③)
- 研究DX基盤を活用した研究論文数: 年間2件 → 15件(③)

### 大学病院における研究支援基盤の高度化による臨床研究力の強化

- 学術的業績/論文数(TOP10%論文数): 12件(3件) → 25件(10件)(①③)
- 共同研究費・受託研究費・受託解析費等収入: 40百万円 → 80百万円(①③)

### 広域データ連携による「地域治験エコシステム」の構築とグローバル展開

- 岡山医療連携推進協議会に関連した地域での新規治験受託数:  
5件 → 20件(①③)

### 地域医療経営リーダー育成・派遣プログラム

- 病院経営リカレント教育プログラム修了者の累計派遣先病院数: 0 → 13施設(②④)
- 病院経営リカレント教育プログラムの累計修了医師数: 5名 → 25名(②④)

### 生成AIネイティブ時代の卒前卒後教育DXを通じた高度医療人材養成・輩出促進事業

- 屋根瓦式医療シミュレーション実習授業プログラム数: 3科目 → 5科目(②④)
- デジタル病理診断学教育プログラム受講者数: 10名 → 120名(②)

## ● 期待される成果・出口戦略:

持続可能な病院経営

教育研究DX基盤強化

地域貢献(高度がん医療・人材循環安定化)